

整備科予備士官の 太平洋戦争回想録

戦後五十年記念誌

海軍第四期飛行機整備科予備学生・追浜会編



902空・派遣基地での零式観測機の整備（トラック島より南300kmのラモトレック環礁）

太平洋戦争で散華された戦友の御魂に謹んで捧げます

鎮 魂

太平洋戦争
海軍飛行機整備科予備学生出身
戦 歿 者 名 簿

(期別、五十音順)

— 目 次 —

	頁
1. 戦歿者名簿に就いて	1
2 戦歿者数及び場所を示す地図	2
3 戦没者についての資料	3
3. 一、二、三期戦歿者(1, 3, 6名)	4
4. 四期戦歿者 (9 名)	5
5. 五期戦歿者 (22 名)	6~8
6. 六期戦歿者 (26 名)	9~11
7. 七期戦歿者 (119 名)	12~23
8. 八、九期戦歿者 (4, 3名)	24

一期 戦死者 1名

1 (3) 4956	奥井 力 17.2.5 紹 広島(電気) 17.8.1 中尉 17.8.7 大尉	大 6.1.20 生(三男) 横浜空 [25Sf] ソロモン群島方面 昭 17.8.7 没 [25才]	(父)彦造(死亡) (兄)淳 (妹)康子、隆子 17年 8月 7日「ツラギ」基地に在りし処、ソロモン海戦に於いて本日以降 無線連絡途絶、不明となる〔横浜空(大艇)はツラギで宮崎司令以下玉砕〕	(本)鳥取県八頭郡若桜町大字糸白見 99 (現)〔兄淳氏は金沢に在住〕
------------------	--	--	--	--

以上

二期 戦死者 3名

1 () 4875	乾 真一郎 16.6.16 紹 東大(機械) 15.4.27 中尉 17.6.5 中尉	大 6.4.1 生(長男) 空母 加賀 東太平洋方面 昭 17.6.5 没 [25才]	(父)真介 (母)兼子 ミッドウェー海戦に於いて戦死〔加賀は1024(現)エンタープライズ艦爆(34機)の攻撃により4弾命中、艦長以下艦橋全員戦死、1925 機30機18分、醒179機17分に沈没〕	(本)茨城県水戸市信願寺町 1306 (現)東京都中野区住吉町 15
2 () 1155 4603	菊地 重光 16.6.16 紹 東工大(機械) 19.4.1 大尉 19.8.10 少佐	大 4.7.25 生(長男) 202空(分)18.12.20 [1AF司]S301 機長 19.6.1 マリアナ群島方面 昭19.8.10 没 [29才]	(妻)陽子 (母)ミサ グワム島にて玉砕。〔S301は 201空(1AF, 26Sf)に所属、 19.1.26 ラバウルトラック、19年 7月21日 グワム島に米軍上陸〕	(本)宮城県 (現)東京都中野区沼袋町 567
3 () 4876	森 武治 16.6.16 紹 東大(航空) 15.4.27 中尉 17.8.24 中尉	大 5.3.2 生(次男) [3F, 1Sf] 空母 翔鶴 西南太平洋方面 昭17.8.24 没 [26才]	(父)兼之(父)(母)トシ代 (兄)富治 〔第二次ソロモン海戦に於いて飛行甲板にて帰還機収容中戦死〕〔海戦は ソロモン諸島サントイサベル島の北東海面で行われ、この時龍驤が沈没〕	(本)東京都杉並区井荻 3-34 (現)

以上

三期 戦死者 3名

*兄 義人氏の住所〔鈴木輝男氏調査〕

1 (3) 4790 -19機 4917	今田 勝己 17.2.5 紹 山梨(機械) 19.5.1 大尉 20.7.21 少佐	大 6.10.22 生(次男) 機空(分)18.10.20 S701機長 19.10.10 比島方面 昭20.7.21 没 [27才]	(父)宗四郎(社) (母)タツ (兄)義人(弟)邦彦(弟)和子、タズ子 タルラック西方山中に於いて行動中、栄養失調とマラリヤに依り戦病死。 〔兵一冊 附録 318機戦部隊記 によると、クラーク地区第17戦区の第三中隊長として戦った〕	(本)宮崎県延岡市大字出北 4082 広島県安佐南区祇園町大字 1696-7*
2 (4) 3239 不詳	桑波田陸太郎 19.2.25 紹 徳島(機械) 16.4.23 中尉	大 7.4.28 生(?男) 機空(分)19.2.5 横濱附 19.8.1 横須賀海軍病院 昭 19.9.6 没 [26才]	(父) ? (母) ? 横病に於いて肺結核により19年 9月 6日死亡。(戦病死) 〔19年 2月25日応召、相模野空附兼教官となる〕	(本)鹿児島県 (現)
3 (1) 3160 3488	樋泉 睦雄 17.2.5 紹 日大(電気) 19.5.1 大尉 20.4.16 少佐	大 4.5.25 生(次男) S305機長 19.3.4 中菲空分 20.1.5 比島方面 昭20.4.16 没 [29才]	(母)みつほ (妻)晴子 (長男)靖志 フィリピン・セブ島にて、足を負傷し、米軍との陸戦に備え、戦友に迷惑 を掛けたくないと言って、壮烈な自決を遂げる。〔同期、西村真船氏調査〕	(本)山梨県八代郡御坂町そば塚 511 (現)横浜市戸塚区大山町 52-7 (靖志氏 現所)

三期 召集を受けず銃後での殉職者及び殉死者 3名

〔三期、鈴木輝男氏及び西村真船氏の調査による〕

1 (3)	中野 猛 早大(電気)	中島飛行機(株)太田工場勤務 昭20.8. ? 没	東京都出身 終戦直後、夫人と共に殉死される。
2 (2)	中山 彰 早大(機械)	三菱重工 江南造船所 昭18.10.30 没 東支那海方面	兄 宏男 〒811-32 福岡県宗像郡福岡町緑町 4395 ☎ 094043-3552 上海丸にて殉職(戦死認定)* 弟 一太郎 渋谷区千駄ヶ谷 1-25-12 * 軍務で亡くなったため、軍属として戦死で、靖国神社に合祀された。
3 (1)	永井 敏博 徳島(機械)	日立製作所 安来工場 昭16~18 ? 没	工場にて殉職。

故森武治君を偲ぶ

長谷川 龍雄

追浜会の幹事の方より、終戦五十周年を迎えるに当り、記念誌作成の計画があり、故森武治君の存命中のエピソードでもとの依頼があり故人の事が突然思い浮かんで参りました。彼が痛烈な戦死をされてから早くも五十年が経過したのですね。

我々は昭和十一年（一九三六年）東京大学工学部航空学科入学のクラスメートでした。東大航空といえは全国で唯一の、しかも学生数が九名しかいないという難関だったのです。彼と私とは高等学校（一高）は同じですが学年がちがうので面識はなかったのですが、何せ九名の事ですから直ちに親しくなります。彼に対する私の第一印象は端正という言葉が一番びつたりでした。聡明さと、礼儀正しさと、自信を内に秘めた好青年である反面ふざけたり、腹の中をさらけ出すといった、はしたない（？）立ち振舞は余り見た事がありませんでした。

学生時代の思い出としては教室の中での出来事は全般的に不思議に記憶がありません。優秀な連中がそろっており、夫々そつなくやっており、成績等ははてんで気にする必要がない連中であり、環境ですからよく分かりませんが恐らく上位であったであろう事は間違いないと思います。

思い出の一つとして守屋先生という恩師の別荘が辻堂海岸にあり、あつかましくも夏休みに泊りがけでクラス・メート全員がおしかけ昼夜を分かたず比較的真面目な話（主として航空の話）に花が咲いた記憶があります。一寸断っておきますが、当時は世相が一日々と緊迫の度をまし、航空科の学生達は自覚的に国家のために尽くさねばという意識が強かった様に思います。

二年生（昭和十二年）の時、夏期実習として追浜に宿泊して約二週間、海軍航空技術廠に通いました。ある夜、双発機の編隊がフル・ロードで超低空で宿舎の上空を通過して行きました。ある種の緊迫感を受

けたのですが、これは陸攻による上海への渡洋爆撃隊の隠密出陣である事が後になって察知されました。森君が何んな思いでそれを眺めていたかわかる由もありませんが。それを契機として海軍の参加による中支への戦線の拡大という先の見えない局面が展開されて行き、彼にとっても日本にとっても目に見えない運命が進行して行ったのですね。

一年生から三年生まで続く訳ですが、学生達の自発的な意志でグライダー・クラブが発足いたしました。航空科に限定する事なくメンバーは内外オープンだったのですが我々のクラスが主体となり全員参加し、グライマリーの製作をやると共に、二年生の時を中心として所沢陸軍飛行場を利用してもらい、殆ど毎日曜日練習をやりました。往復のため中古の自動車を取得しました。グライダーの練習は勿論の事、往復の車の運転の練習（運転免許を持っているのは一、二名しかいません。後は無免許です。それを取り締まる体制は皆無です）を充分エンジョイした上、遂に三年生の夏休みは盛岡まで出かけて二級滑空士の免許をクラス・メート全員が取得する事が出来ました。この話の中で特に森君が何うという突出した話題は出て来ません。逆に皆が一緒になって助け合い、同じ成果が出る様に日夜を問わず共同作業をやった事が如何に楽しく良き思い出として残るものであったが、森君も全く同じ思いであったであろう事は疑う余地もありません。

卒業後は私は陸軍関係の立川飛行機に入社し、彼とは仕事の上での縁はなくなり、戦争突入と共にお互いに忙しくなり、私生活を犠牲にする様な局面となり、他を省みる余裕もなくなっていました。

森君がソロモン海戦で痛烈な戦死を遂げられた事を知ったのは報道管制がしかれていたためか大分後になってからであり、従って御遺族の事だとか、葬儀の事だとかは情報もタイミングも目茶苦茶になってしまつて今日に至っております。

今度、記念誌の話を聞き、これと言ったエピソードないまゝ筆をとりたくなつたのは、ひとえに故人に

対して過去の無礼を謝し、心よりご冥福を祈りたかったからに外ありません。

何うか森武治君御霊のお安らかであります様に。

以上

長谷川龍雄様から天沼彦一（追浜会幹事）宛のお手紙

前略

文中にもあります様に、さしたるエピソードもないまま、あえて拙文を書きました。当時の状況が余り武勇伝をかもし出す様なものでもなく、森君自身もそう言った性格でもなく、面白くないかもしれませんが不悪ご諒承下さい。

おたずねの彼の勤務先と言うのがさっぱり思い出せません。唯々海軍と言う事だけしか念頭にありませんでした。従って最初のお手紙の意味も誤解して申訳ありません。

序ながら高仲顯君は同じ設計部に在籍しておりよく覚えております。今は何うしておりますか。

草々

長谷川龍雄

長谷川 龍雄様

謹啓

突然にお便りを差上げます御無礼をお許し下さい。

昭和17年8月、第2次ソロモン海戦に於いて戦没されました貴下御同級の森 武治様に関して御教示を得たくお便り申上げました次第であります。

小生は昭和16年3月東大工学部建築学科を卒業し、同年5月第4期海軍航空予備学生（整備科）として横須賀海軍航空隊整備練習部に入隊した者であります。そして6月には予備学生の教育主任附として、森 武治予備機関少尉（第2期海軍航空予備学生（整備科）をご卒業）が着任され、翌昭和17年4月私達が1ヶ年の教育を了えて卒業・任官する迄真心のこもった御指導を頂きました。その印象は50年後の今日でも極めて鮮明に残っております。

実は終戦50年を明年に控え、私供4期予備学生会（追浜会）では記念誌を作成するべく準備を進めておりますが、御差支えなければ森教官御存命中のエピソード等をお聞かせ頂きたく、失礼をも顧みず御同級の方々にお便り申上げました次第であります。同封ハカキにて御意向をお示し頂けますれば誠に幸でございます。折返し送稿の手配をさせて頂き度く存じ上げます。何卒宜しくお願い申し上げます。御無礼の段重ねてお詫び申し上げます。

頓首

追伸 東大御卒業後の御就職先及び御遺族（御令兄が居られたと伺っておりました）の御住所を御存知でしたらば御教示頂き度く存じます

平成6年11月15日

天沼 彦一 拝

天沼 彦一

〒100 東京都千代田区千代田二丁目二番一

追浜会

20-45
17-42

